

八類思算洋奇談
壹

特別
14
696
11





如孝
玉品文序



空然とせむ其義

今わむく一産此のま古渡の星ふを備は所はらへ備の
任りもころころ力ほくはひは猶奥婦の生あを
合ひりり合ひりり初る神ふ極婦くころころ極
とのあもて草ことの一申も此の膳とてたてたをひ
は道去程は七日泊る味入付りてあはれあはれあはれ
をまの養生節くは清くもあひて仔細の神あはれ
あはれはあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
社の標地へましあひあはれあはれあはれあはれあはれ
ふひあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

うれしき事なるものありては
 待兼一仙代花の對決 鳴刃 中 長春
 一人を先へ迎ふ
 年をへし 頭の花を 聖にほそく
 六人とも一人を 夢をうらひ
 以海のちふ 舞もを 文をうら
 多々の門を ありき 明くも
 指折る 百の 終り 仕年一 終
 腹の 腹を けり 上をの けり
 鴻川の 今を 終る けり けり
 玉 日 世 玉 龜

同十月二日會

江戸を けり けり けり けり
 ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり
 白鼻紙を 出さ ぬ 濃く ぬり ぬり
 二三枚紙を ぬり ぬり ぬり ぬり
 竹を ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり
 以上 ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり
 舞を ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり
 備後 ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり
 ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり
 ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり
 ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり
 蒼 龜 蒼 龜 蒼 龜 蒼 龜

七ツを聞くと花記より
 きののまろくつこのる佐の元節年 玉
 かしらやふふはつとよ友もく
 けりくくと彩重きよわは流きり坦
 さいやまのふまきつのはかきり
 御國入りしよ一名と目と合が年
 甲所のけりしよとわびくけれ
 山層と水の山佐物の山河 まあき
 蒼

川柳
 太平のいんさくゆき山まきり
 合 無間

梅

無間堂作

目のまろくつこのる梅の花名は世里持
 梅の流は津の角のまろくつこのる梅の花名は世里持
 のまろくつこのる梅の花名は世里持
 司まろくつこのる梅の花名は世里持
 多の梅の花名は世里持
 冠の梅の花名は世里持
 やる。庭のまろくつこのる梅の花名は世里持
 引まろくつこのる梅の花名は世里持
 隣の梅の花名は世里持

けりぬ世作だもたは猫垣城といはれも猫は扱ふも色せたる
 中々めし神楽の礼有身と猫猫の何の地猫丸の剣下猫柳を
 切脚もき用お名もさす此の自余さうさう之は猫成猫成り
 死のまよひぬまがたもあれんぬ猫成りも重傷がけり猫成り
 のまのまきわらへ猫成りもあはれんぬさうさうさうさうさう
 ありやもあれぬ身は二股猫の外は名うさうさう猫成り
 けりまよひぬまがたもあれんぬ猫成りも重傷がけり猫成り
 まいりて身はまがたもあれぬ顔して居るも猫成り天狗
 登りもひぬ猫成りの上は強あるんぬわらわらひぬさうさう
 さうさう

骨董評判記

座本 鋳太藏 美濃善喜裏
 吉良屋店 改草屋庭

▲江戸氣の部

巻頭 極上吉 子 今古園

國取骨董馳名社伴の巻頭西鏡茶の
 大倉壽天神東南都老れぬの西圖
 事持と今古堂飛壽史さうさう本
 田町と西鏡茶とんじり巻頭と書
 第の柱堂とさうさうの國土と書
 古書の外は自み著述の漢書百卷

養念寺の事
引まの山
園西
住
如
善
存
此
先

あ
逸
取
の
あ
運
東
蒼
つ
引
一
大

伊勢部

巻軸 至正各  養龍園

國取 竹行 養龍園 養龍園 養龍園
伊勢屋の親 養龍園 國取 養龍園
其 養龍園 養龍園 養龍園 養龍園
流 養龍園 養龍園 養龍園 養龍園
時 養龍園 養龍園 養龍園 養龍園
是 養龍園 養龍園 養龍園 養龍園

の 養龍園 養龍園 養龍園 養龍園
者 養龍園 養龍園 養龍園 養龍園
今 養龍園 養龍園 養龍園 養龍園
三 養龍園 養龍園 養龍園 養龍園
雙 養龍園 養龍園 養龍園 養龍園
子 養龍園 養龍園 養龍園 養龍園
之 養龍園 養龍園 養龍園 養龍園
の 養龍園 養龍園 養龍園 養龍園
流 養龍園 養龍園 養龍園 養龍園

素多歡喜是乃其足も自ら看る。聲格養也。思氣似
而並東都の喬起て。再贈て致給ふ。白の西國片被是素
普通の唐版。來受て。わが禮。再贈て。昌易。浪華の芳集
人の僻多事。思ふ。却遣人。道中。其後。實漢器罪
と。好め。而。其。其。今。此。取。賚。と。南。片。の。柳。奈。何。物。々
思は此是足。下。此。歲。月。思。着。其。再。潛。有。あ。は。ゆ。骨。董。鋪。店。
南。養。漢。厚。着。色。の。裡。北。鎔。の。藏。の。隈。残。方。好。法。海。の。燕
算。の。子。母。其。驥。龜。の。題。の。珠。々。も。求。不。果。を。素。の。物。思
出。て。九。年。前。過。行。の。昔。思。と。天。保。五。年。唐。印。月。の。末

項のハ花精。信門。大須。梵利。の。前。高。麗。唐。ま。瑞。ふ。
活。の。新。と。相。入。觀。場。也。相。傳。畫。邊。在。高。麗。李。皇。前。の
活。虎。行。の。畫。也。其。序。上。言。書。了。画。圖。の。り。を。部
ま。ら。ぬ。は。是。の。月。々。を。音。畫。の。海。邊。優。曼。華。の。花。の
活。御。其。可。也。持。此。を。造。化。の。普。佛。宋。性。活。氣。を
斯。の。世。報。の。事。報。謝。得。て。為。ふ。あ。の。物。の。美。理。を
禪。の。心。也。世。部。諺。を。知。る。物。ハ。の。伊。勢。氣。足。下
等。の。か。の。奇。也。手。活。け。の。物。の。謝。物。の。か。も。や。ハ。
然。る。這。等。の。歌。々。成。成。言。い。瑤。板。奇。藉。ハ。有。る。と。し

もも湯まが
んはももも
音畫の真面目

△[△] 爲村の所中の修刻のしるし

そりやうきんぞり

後天のりていふる工は成るやうに

三傳せんとて市入る古國を

流りてのちては節に宿りて

△[△] 是も龍古の二條

△[△] 女花はわらぬ好景を本に

と神は月をわらうは節に

神は月をわらうは節に

神は月をわらうは節に

神は月をわらうは節に

△[△] 子らの教やまらん今古國を

はるあつた色にえりて

そりやうきんぞり

△[△] 史の昔より十世後

ナリく度別人古を

國國屋のりて

分市もや年素

社中のりて

史の結のりて

實利のりて

△[△] 名は年迷の異射と

今本と
一ハアト申とあるは、
今本と

百あり

一コリヤ、
北條忠見

一ヨリヤ、
世名

一ヨリヤ、
ヨリヤイ

一ヨリヤ、
如く

一ヨリヤ、
但ハ古書と文

一ヨリヤ、
上と

一ヨリヤ、
サア

一ヨリヤ、
サア

一ヨリヤ、
サア

下浩

ヨリヤ

ヨリヤ

ヨリヤ

一ヨリヤ、
連成

一ヨリヤ、
其

一ヨリヤ、
連成

一ヨリヤ、
何

一ヨリヤ、
分

一ヨリヤ、
此

所々方々たるしきりしきりもあはれ
探りて天覧は後すまひしひよしの勅使松の
以清りて五年の昔也とて都々々々
一冊しきりしきりあはれあはれとて天覧は
後すまひし

差す

一、二、三、又、は、流、り、し、こ、の、山、舟、と、い、は、れ、あ、は、れ、は、
連、成、ハ、ア、ー、と、い、は、れ、あ、は、れ、は、

お屋中屋のあそびなまはれあはれ
あそびのあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそび

中唱の流古のて物連気ぞもあはれ
あそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそび

目録及帰因
二十三日 幕

狂言作者
天壽園

初拜



